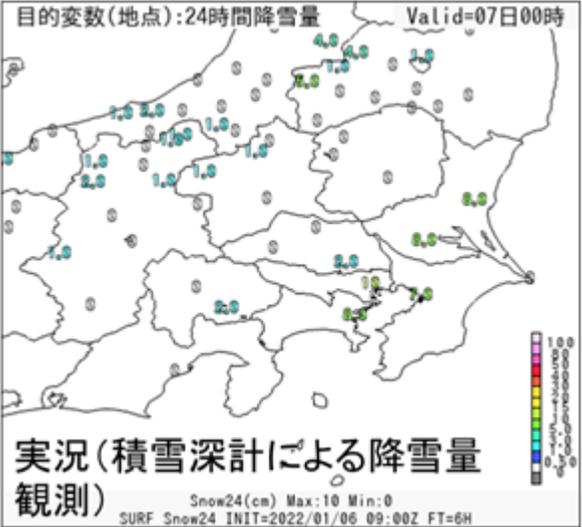
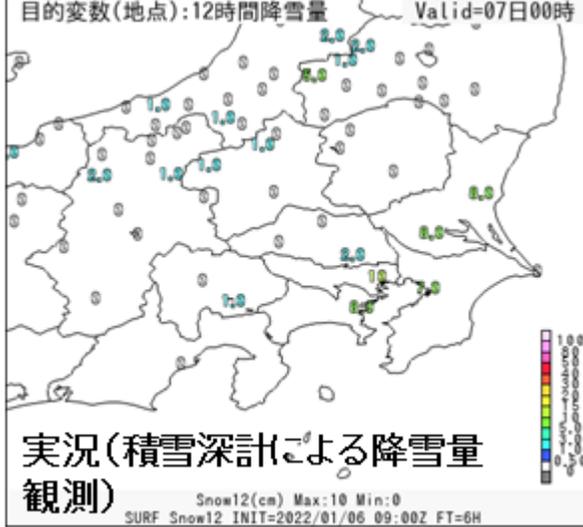


令和4年度数値予報解説資料集 正誤表

最終更新日：2023年5月18日

訂正日	該当箇所	誤	正
2023年2月28日	1.5節 p.82 ノート	表にはアンサンブル予報システムの主な仕様を示している。	表にはアンサンブル予報システムの主な仕様を示している (主に外国支援目的に使用しているものを除く)。
2023年2月28日	1.7.14項 p.196 スライド	スライドの図に「この画像は表示できません。」と表示される。	図が正常に表示される。
2023年2月28日	2.4節 p.320 ノート	ここでは、前述した全球数値予報システムの改良項目 (Dual-Metop AMV 新規利用および RTTOV-13 への更新) およびメソ数値予報システムの改良項目 (GPM/DPR の利用手法改良、マイクロ波サウンダ ATMS 観測データの利用開始および RTTOV-13 への更新) がメソ数値予報システムに与える影響を評価するために実施した試験の結果を示す。2022年4月時点の現業メソ数値予報システムと同等の対照実験 (CNTL) と、これに変更を加えた実験 (TEST) を行い、TEST では全球数値予報システムの実験 (TEST) による境界値データを使用している。	ここでは、前述した全球数値予報システムの改良項目 (Dual-Metop AMV 新規利用および RTTOV-13 への更新) およびメソ数値予報システムの改良項目 (GPM/DPR の利用手法改良、マイクロ波サウンダ ATMS 観測データの利用開始および RTTOV-13 への更新) の影響も含めて局地数値予報システムの改良 (マイクロ波サウンダ ATMS 観測データの利用開始および RTTOV-13 への更新) を評価するために実施した試験の結果を示す。2022年4月時点の現業局地数値予報システムと同等の対照実験 (CNTL) と、これに変更を加えた実験 (TEST) を行い、TEST では前述のメソ数値予報システムの実験 (TEST) による境界値データを使用している。
2023年2月28日	3.1節 p.368 ノート	典型的な南岸低気圧による大雪の例として、平成25年1月の関東地方南部の大雪について、雪水比を調査した結果では、雪水比は1を下回っていた (牧野 2014)。	1989~2012年の南岸低気圧の積雪事例についての調査で、関東南部都市部の雪水比の平均値を調査した結果では、雪水比は1を下回っていた (牧野 2014)。

<p>2023年2月28日</p> <p>3.1節 p.383 スライド右下図</p> <p>実況降雪量として24時間降雪量を掲載していたが、12時間降雪量に差し替えた。</p>			
<p>2023年3月8日</p>	<p>1.7.1項 p.107 ノート</p>	<p>観測データの入電待ち時間は00, 12UTCで<u>11時間20分</u>、06, 18UTCで7時間50分である。</p>	<p>観測データの入電待ち時間は00, 12UTCで<u>11時間50分</u>、06, 18UTCで7時間50分である。</p>
<p>2023年5月18日</p>	<p>1.4.1項 p.43 ノート</p>	<p><u>鉛直方程式</u>の運動方程式は「静力学平衡」(もしくは「静水圧近似」)を仮定する場合(発達した積乱雲等でなければ、かなりよい精度で成り立つ)、3つ目の式の静力学平衡の式が用いられる。</p>	<p><u>鉛直方向</u>の運動方程式は「静力学平衡」(もしくは「静水圧近似」)を仮定する場合(発達した積乱雲等でなければ、かなりよい精度で成り立つ)、3つ目の式の静力学平衡の式が用いられる。</p>